

福岡県立城南高等学校

〒814-0111 福岡県福岡市城南区茶山6-21-1 ☎092-831-0986

活動団体 理数ゼミ7班 活動人数 2人 主な活動時間 授業の一環として/休み時間や放課後

福岡市の湿地帯生物 ～大都会に生きる希少生物と危機～

きっかけ

福岡市は160万人以上の人口を誇る九州最大の都市でありながら、主に2つの干潟と複数の島を有する多様な自然環境に恵まれた地でもある。もともと趣味で生物採集を行っていた城南高校理数ゼミの2人は、福岡市内の湿地帯にはどんな種類の生物が生息しているのかを詳しく知りたいとの思いから、調査に取りかかった。



校内の発表時に用いた資料。標本なども使い、生徒の関心を集めることができた。

活動内容

調査範囲は、福岡市内の浅海を除く湿地帯環境に設定。水鳥、汽水・淡水魚類、両生類、水生昆虫、淡水貝類、ベントス、水生植物などの生物の生息状況を約12ヵ月間にわたり調査した。発見した生物は投網・たも網を用いて採集したほか、採集が規制されていたり、困難だったりといった場合には目視での観察とした。また可能な限り画像として記録を残し、図鑑やインターネット、有識者への質問などにより種を特定した。



博多湾流入河川のみが生息するハカタスジシマドジョウ、絶滅危惧ⅠA類(法令施行前採取)。

成果

調査の結果、確認することができた生物は358種類に上った。そのうちハカタスジシマドジョウなど98種類が希少種で、なかには県内ではじめて生息を確認した生物もいた。

和名学名ともに“博多”の地名が付くハカタスジシマドジョウは、今回の調査ですべての個体が河川下流で発見された。近年の開発工事などの影響で本来の生息地である後背湿地が減少していることが関係していると思われる。

調査を通じて、福岡市には多数の希少種が生育できる良好な自然環境が残っているものの、大都市ならではの問題である開発工事による生息地破壊や、外来種侵入によって生物の絶滅リスクが高まっていることが判明した。今後は、より調査範囲を広げ、福岡市の自然環境保全に活かせるようデータの拡充に努める。

活動エピソード

今回発見された外来種は34種類だった。調査の結果は校内で共有し、外来種や開発などによって自然環境が脅かされている現状を伝えるとともに、福岡市の自然環境の魅力を紹介。学内の意識向上を図った。

今後の展望

川虫類や甲殻類など、まだ調べきれっていない分類を中心に福岡市内に生息する湿地帯生物の種類を調べ、自然環境や地理的な特色を他の地域と比較する。そのうえで外来種や開発工事が与える影響をより詳しく調査し、環境保全のために何ができるかを考えていく。